

## 自治会からの近況報告

### 汐見台自治会

子ども部

ハロウィンのイベントのご報告を・・・と一息ついてしまっているうちに、寒くなって参りましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。

午後3時30分開場のハロウィンのイベントに、125名の子どもたちの参加を頂き、ありがとうございました。楽しんで頂けたでしょうか。お菓子の配布をしてくださった16軒の皆様、心より感謝申し上げます。皆様のご尽力あって、沢山の子供たちの笑顔を見ることができました。

イベント開始のご挨拶で少しお話をさせて頂きましたが、子ども部のお手伝いから始まり今回初めてハロウィンイベントを施行させて頂きました。至らぬ点多々あったかと思いますが、警備のスタッフの方々始め保護者の皆様のご協力で、事故なく怪我なく無事終了できてほっと胸をなでおろしているところです。



#### ● 松井汐見台自治会長よりお知らせ ●

子ども部の役員を、現在ヴェレーナ茅ヶ崎海岸にお住まいの4名が担当しています。

子ども部のイベントは非常に心温まる内容になっております。是非、今後子ども部の役員をやってみたい方、もしくは、お手伝い程度なら出来る方、ご連絡ください！汐見台自治会内で、持ち回りで役員をやって頂くことが、役員負担の偏りをなくす一番の手段だと思っておりますので、ご協力頂ける方、お待ちしております！

### 浜竹一丁目自治会

会長 植松 伸擴

浜竹一丁目自治会では、昨年秋より市の都市政策課と協働して、同課が提唱する「防災まちぢから応援ツール」のモデル地区として活動を進めております。この「防災まちぢから応援ツール」は次の4つの事業から成り立っています。

1. 家具転倒防止金具取付け支援事業  
…避難経路確保
2. 感震ブレーカーアダプター設置事業  
…通電火災を起こさないための設備
3. 住宅用自動消火装置設置事業  
…初期消火対策
4. 沿道景観形成事業  
…避難路の安全確保のための政策

このうち「1」と「2」については、迫りくる大震災に備え、今すぐ全ての家庭で取り組まなければならない防災対策です。そのため、浜一自治会では、家の中の避難経路を確保し、火災を起こさないため、「感震ブレーカーアダプター」(電源遮断器具)を全ての家庭に取り付ける活動を始めました。茅ヶ崎市より自治会を經由して当器具を貸与して頂き、配布や取付け時の問題点などを洗い出し、減災対策の一助となるべく市に報告をする事しております。

また、「4」の沿道景観形成事業も、住民の方へお願いをして協力を頂き、道路幅の拡幅、ブロック塀を簡易フェンスに取り換えるなどの工事を行っています。

そして、「大震災時、この地域から一件の火災も出さない事」を目標に、ご近所で協力してこの事業を成功させましょう!」を目標スローガンとして減災活動に取り組んでいます。



## まつなみだより



平成28年2月15日発行(第7号)  
発行：松浪地区まちぢから協議会  
印刷：(有) 仲手川印刷



## 2015年を終えて・2016年を迎えて

松浪地区まちぢから協議会  
会長 植松 伸擴

2015年の年明けは、待望の「松浪コミュニティセンター」の開館を4月に控えて、事務職員の採用、備品の検討や設備管理委託先の選定、コミュニティカフェ部会の立ち上げなど慌ただしい日々でした。



3月21日には市長を始め市役所関係者、市内の他のコミュニティセンターの館長など、多くの来賓をお迎えして竣工式を挙行し、4月1日に無事にオープンする事が出来ました。

「松浪地区まちぢから協議会」は、平成25年5月の発足から4年目を迎え、防災対策部会、コミカフェ部会、自治会長部会、市民安全部会などそれぞれが、活発な活動を続けております。

毎年実施している秋の地区防災訓練は、防災対策部会の中に防災訓練実行委員会を立ち上げ、まちぢから協議会の主催事業となっています。今年度も雨模様の中800余名の参加をいただき、松浪小・中学校の2会場でいきました。

また、毎年9月に行なっている市民集會も「松浪地区ま

ちぢから協議会」が主催となり、今年は初めて全体会に引き続き、防災対策、高齢福祉、障害福祉、子ども育成、それと地域学習の5つの分科会を設け意見交換を行うことが出来ました。約100名近くの地域住民の皆さんにお集まり頂き、防災対策だけでなく福祉、教育の問題にも多くの皆さんが参加され、有意義な討議が行われました。

折しも、市議会では「茅ヶ崎市地域コミュニティの認定等に関する条例」が可決され、平成28年4月からは「まちぢから協議会」が正式に発足する事になりました。そのため、来年度からは各地区の「まちぢから協議会」が市長の認定を受け、地域を代表する団体として正式に認められる事になります。新しい年を迎え、それにふさわしい組織や体制はどうあるべきか、市役所の関係部署と一緒に考えてゆかねばと思っています。

加えて、松浪コミュニティセンターは、より多くの地域の皆さんに利用して頂けるよう松浪コミュニティセンターの自主事業の拡大に努め、松浪地区の市民活動の中核になるように努めてゆかなければならないと思っております。今年も皆様のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 地域団体からの近況報告

### 食生活改善推進団体

食生活改善推進団体 菊池 紀子

こんにちは。食生活改善推進団体(食改)というボランティア団体です。

私達の会全体では、マタニティクッキング、親子料理教室、骨太クッキング等々、食を通じて、幼児から高齢者まで幅広い年代の方々の健康のお手伝いを行っています。

地域では、もう十数年続いている社協主催の「お惣菜づくり」に協力し、12月にも2回開催されましたが、毎回大勢の方が参加して下さい、和気あいあいと手際良く作り、アツと言う間においしい料理が出来上がりました。

平成28年も色々な料理教室が予定されていますので、来て！話して！作って！食べて！参加をお待ちしています。



#### ● 編集後記 ●

昨年発表された緑が浜小学校の第2校歌『緑の子』の最初に、「世界で一番すてきな町にくらす」というフレーズがあります。大きな災害は無いし、気候は温暖、右に富士山左に江の島と景色は最高、私も松浪地区は日本一住みやすい街だと思っております。あと楽しく過ごすのは住民の努力次第ですので、新しいコミセンを拠点に「世界で一番すてきな町「松浪。」にふさわしい楽しいイベントを、皆さんと一緒に企画・実行してゆきましょう。

TOM

### 緑が浜小学校P&T

緑が浜小学校P&T 会長 刈間 昌仁

子どもたちの想いがつまった「緑の子」(第2校歌)誕生！10月15日、創立15周年記念セレモニーが行われました。その中で発表されたのが、第2校歌です。

第1校歌は、初代校長である角田先生が描いたビジョンでした。その中で学び、巣立っていった卒業生は1313名。緑小のアイデンティティが生まれ、根づき、今の在校生に受け継がれています。

第2校歌は、「子どもたちからのメッセージにしたい。」神本校長先生はそんな風に思い、6年生からプロジェクトメンバーを集めました。メンバーが各学年の緑小への想いを集め、キーワードとして作詞作曲をお願いするアクアマリンのミマスさんに託しました。アンケートで出た「緑の子」がタイトルに！歌詞にも、メンバーがまとめた子供たちの意見がちりばめられ、学校生活がぎゅぎゅ詰まった歌ができて上がりました。



### 賀詞交歓会が開催されました！

平成28年1月16日(土)に松浪コミュニティセンターで毎年恒例の松浪地区賀詞交歓を開催いたしました。

当日は、茅ヶ崎市から服部市長を始め、夜光・山崎両副市長、神原教育長など18名の職員のご出席を賜り、茅ヶ崎警察署生活安全課佐藤課長などの来賓を含め、総勢69名が一同に会し実施されました。

松浪コミュニティセンターが昨年4月1日にオープンしたことにより、会場のキャパシティに余裕が生まれ、各団体2名までの出席を可能とし、又、多数の関係者をお招きし、盛大に実施することができました。

開会にあたり、松浪小学校の生徒による和太鼓の演奏が行われ、迫力のある鼓動が体の芯まで響き渡り、会場全体を包み込みました。

松浪地区まちぢから協議会植松会長から新年を迎えるにあたり、関係者の皆様



へ感謝の気持ちが伝えられ、今後の松浪地区のますますの発展や地域コミュニティの推進に関する開会挨拶がありました。

開会後は、地域の各団体と行政職員などの関係者との活発な意見交換が行われ、2016年の松浪地区まちぢから協議会としてのスタートを踏み出すことができました。

しかしながら、地区内には様々な地域課題があり、これらの諸課題に対して、地域と行政が、がっちりスクラムを組み、一つひとつ諸課題を解決できるよう調整を行ってまいりますので、地域住民の皆様のご協力をお願いします。

## 松浪地区総合防災訓練

松浪地区まちぢから協議会 防災対策部会

副部長 田中 義益

2015年11月15日(日)、松浪地区まちぢから協議会主催の防災訓練が行われました。

東日本大震災以降2012年からの過去3年間、避難所開設訓練を中心に松浪地区4ヶ所の小中学校で行われて来た防災訓練ですが、参加出来る人数に限りがあり、住民の防災訓練への参加意識が低下するなど、問題になっていました。

今年度は、「守ろう!自らの手で」のテーマで、

- ①自分の身は自分で守る「自助力」を底上げする。
  - ②弱者を見捨てず互いに助け合う「共助力」を底上げする。
  - ③全世帯の10%参加を目標に、防災啓発を主眼とした参加型の訓練を行う。
  - ④自治会所有のデジタル式簡易無線機の扱いに習熟する。
- の4つをスローガンに、松浪小学校、松浪中学校の2訓練拠点で、6年ぶりの総合防災訓練として実施しました。

当日は、前夜から続く生憎の雨模様でしたが、朝8時30分にマグニチュード7.9、最大震度7の南関東地震が発生、発災から27分後に5.1メートルの津波が到達する想定で訓練が開始され、松浪地区7,700軒余りの世帯を対象に、14自治会それぞれによる「安否確認訓練」が行われました。

更にこの「安否確認訓練」で収集された安否情報を、デジタル式簡易無線機を用いて、各町内からまちぢから協議会本部に送信する「無線交信訓練」や、市職員による「MCA無線の運用確認」なども併せて行われ、災害時における情報伝達手段の確保の難しさと、公共機関との情報共有の重要性を再確認いたしました。

訓練拠点毎に実施された参加型の防災訓練においては、松浪小学校では、浜竹1丁目、浜竹2丁目、浜竹3丁目、出口町、ひばりが丘、美住町、松浪1丁目の7自治会が、松浪中学校で

は、浜竹4丁目、松浪2丁目、富士見町、LG富士見町、常盤町、緑が浜、汐見台の7自治会が運営に当たりました。

具体的に、松浪小学校では、

- ①水消火器による消火訓練
  - ②起震車体験
  - ③移動式ホース格納箱、模擬接続訓練
  - ④三角巾使用法訓練
  - ⑤毛布を使用する要介護者運搬訓練
- の5訓練を実施しました。

松浪中学校では、

- ①移動式ホース格納箱、放水消火訓練
  - ②バケツリレー
  - ③水消火器による消火訓練
  - ④瓦礫からの要介護者救出訓練
  - ⑤煙り体験
- の5訓練を実施しました。

それぞれの訓練では、校庭の利用がままならない悪天候の中でも臨機応変に場所や訓練内容の工夫をしていただき、自主防災組織に所属する防災リーダーが、市の訓練指導者の協力を得て、ほぼ晴天時と遜色の無い訓練を実施することができ、動員も延べ735人を得ました。

また訓練終盤には、服部市長による両会場の視察を受けました。

参加いただいた地区住民の皆様には、参加賞として、災害時非常食のアルファ米と防災手ぬぐいをお持ち帰りいただきました。

最後に、防災訓練実行委員諸氏、市防災対策課、消防本部警防救命課、第12・第20消防団の皆様及び学校関係の皆様にも訓練の各段階で協力を頂きました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。



## 松浪地区まちぢから協議会からのお知らせ

松浪地区まちぢから協議会 副会長 平松 民平

松浪地区まちぢから協議会のホームページは、今年4月にコミセンオープンと合わせて運用をはじめました。一度アクセスしてみてください。

<http://matunami.jimdo.com/>

またはグーグルなどの検索サイトで「松浪地区まちぢから協議会⇒検索」で出てきます。

このHPを見れば松浪地区で起こっているすべてが分かることを目標としています。今は30余りの団体から寄せられた記事が中心ですが、松浪地区にお住まいの方(サークルや個人)からの投稿もお受けいたします。出来事、景色、思うこと、写真、などこのHPに掲載してみたい内容をお持ちでしたらHP内の「問い合わせ、ご意見」をクリックしてその旨、お知らせください。折り返しご連絡いたします。

## コミセンからのお知らせ

松浪コミュニティセンター 館長 牧島 達夫

『松浪コミュニティセンター』が開館して11ヶ月が過ぎました。この間、スタッフは何もかも初めての経験のため、他のコミセンを参考にしながら手探りで管理・運営業務をしてきました。おかげさまで特に大きなトラブルもなく無事に新しい年を迎える事が出来ました。

すでに近隣住民の多くの方々が、団体登録をされて定期的に部屋をご利用頂いていますが、申し込みの必要のない子ども家『なみっこ』やフリースペース、ランチも楽しめるコミカフェを含めて、コミセンで過ごす時間が地域の人々の生活の一部となってきている様に感じます。

多少余裕が出てきた今年は、住民の皆様楽しんで頂けるイベントを計画してコミセンを盛り上げようと思っております。『松浪コミュニティセンター』は松浪地区住民が作る住民の憩いの場なので、コミセンを更に楽しくする為のアイデアを、皆様にも考えて頂きたいと思っておりますのでご協力を宜しくお願い致します。

なお、「コミセン、コミカフェ、なみっこ」についての情報は、この「まつなみだより」や毎月発行されている「松浪コミセンだより」及び新しく設置された「夜間照明付き掲示板」にて告知いたしますのでお見逃しの無いように・・・。

## 防災対策部会からのお知らせ

松浪地区まちぢから協議会 防災対策部会 部長 有川 勝治

昨年11月15日(日)に実施した防災訓練には多数の皆様のご参加をいただき、ありがとうございました。

前日からの降雨のため、両会場ともグラウンドは、かなりぬかるんでいる状態で、実施自体が心配な状況でしたが、訓練関係者の臨機応変の処置で、別項訓練記事のとおり、おおむね目的を達成することができました。

さて、平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、間もなく5年になります。当時繰り返し流された津波の惨状が記憶に残っているためか、松浪中学校の1年生が毎年実施する

「地区防災マップ作り」調査テーマとして、多くのグループが津波避難を選びます。津波に備えることや松浪地区固有のリスクであるクラスター火災に備えることが、重要であることは言うまでもありません。その一方で家具の転倒防止をはじめ各家庭に必要な対策が疎かになってはいないでしょうか。発災時に自分自身の安全を確保して初めて、次に予想される災害にも対応できるのです。松浪地区全体における防災力の底上げのためにも、身近なところから取り組んでいこうではありませんか。

## 市民安全部会からのお知らせ

松浪地区まちぢから協議会 市民安全部会 部長 前田 積



### 「空き家・空き地」について

最近、松浪地区で管理されていない「空き家・空き地」が多くなってきていると感じています。

管理されていない「空き家・空き地」の問題点として、

- ①風景・景観の悪化
- ②防災や防犯機能の低下
- ③ゴミなどの不法投棄等の誘発
- ④火災の発生を誘発
- ⑤悪臭の発生
- ⑥その他(樹枝の越境、雑草の繁茂、落ち葉の飛散等)が考えられます。

また、「空き家」が増えている原因として言われているのが、

- ①現在ある住宅数より世帯数が少ないこと
- ②更地より空き家である方が、税法上有利であること
- ③核家族化に伴い、1人暮らしの高齢者が増えていること

などです。

高齢化率は平成27年現在茅ヶ崎市で24.4%に達し、4人に1人が高齢者となっています。「空き家」所有者の特徴として「60歳以上」が59.5%であり、高齢者が半数以上占めている(平成22年国土交通省調査)結果が出されています。茅ヶ崎市の「空き家」率は10%(平成20年度調査)で現在はさらに増加していると思われま。

市民安全部会では、平成28年度の課題として、「空き家・空き地」問題を取り上げる予定で、それに伴い、現在、松浪地区の各自治会に「空き家・空き地」の調査依頼をお願いしています。

また、調査結果を茅ヶ崎市に提出して是正をお願いするとともに「空き家・空き地」の有効利用を地域から考える必要があるため、今後、市民安全部会で協議し、検討したいと考えています。

## コミュニティカフェ部会からのお知らせ

松浪地区まちぢから協議会 コミュニティカフェ部会 部長 小野江 達人

コミカフェも無事に新年を迎えることが出来ました。昨年4月にオープンした時は飲み物だけのメニューでしたが5月からは手作りケーキなどを加え、7月には待望のランチを始めることが出来ました。コミセンでの会議やお集まりのついでにコーヒーを、お友達のおしゃべりやランチに、午後のひとときスタッフとちょっとおしゃべりに。来店いただけるお客様の人数も少しづつ増え、今では平均して毎日、50人を超える様々な年代の方々にご利用いただいています。

私たちスタッフもお客様に少しでも喜んでいただこうと、料理やデザートに工夫を凝らし皆様のお越しをお待ちしております。今年からはデザートに季節限定で『おぜんざい』も始めました。ランチの時間帯は大変混み合っており迷惑をおかけしておりますが、2時から4時の時間帯はゆっくり出来ます。お一人でもスタッフとおしゃべりにお越しください。笑顔でお待ちしております。